

# 米国の映画祭

## キャロリー・ウォーカー

米国全土で映画祭に対する人々の関心と支持が高まり、新人の映画製作者には広い発表の場を、観客にはさまざまな映画を楽しむ機会を与えていた。キャロリー・ウォーカーは米国務省国際情報プログラム局の専属ライター。

米国だけで300以上ある映画祭は、映画ファンにとっては、そのような場がなければ上映されずに終わるかもしれない短編・長編映画を見る機会となっている。それはまた、独立系映画の製作者たち、とりわけ新たに訓練された若いアーティストたちに、先端的な作品や観客の心を強く動かすドキュメンタリーを披露するまたとない機会を提供し、さらにはそれが映画界でキャリアを築く上でプラスに働くかもしれない。

映画祭には2つの重要な目的がある。ひとつは、映画会社に採用されて商業映画を製作するまでにはもう少し発表の機会が必要な、独立系映画製作者たちに光を当てること。もうひとつは、映画ファンと地元の人々がいろいろな考えについて話し合う手段となることである。フランスのカンヌ国際映画祭やユタ州のサンダンス映画祭などよく知られている映画祭から、ペンシルバニア州ピッツバーグの「シルク・スクリーン」（アジア系米国映画祭）やオレゴン州ポートランドの「カスケード・フェスティバル・オブ・アフリカン・フィルムズ」など、あまり知られていない催しまで、さまざまな規模や形態の映画祭がある。何十年も実施されている映画祭もあれば、「フィールドからのストーリー」（3年目を迎えた国連ドキュメンタリー映画祭）のように比較的新しいものもある。国連がスポンサーのこのドキュメンタリー映画祭では、感動を与える映画の製作というだけでなく、同時に、世界が抱える問題の克服もテーマとなっている。（「フィールドからのストーリー」の詳細は、  
[<http://www.mcainy.org/common/11040/?clientID=11040>] を参照。）

ほとんどの映画祭では、審査員と観客の両方で賞を決めるコンビネーション方式を採用して、作品や製作者にスポットライトを当てているが、コンペティションにエントリーしない作品も上映される。一般的にはこのような方法で、映画は配給市場に出され、独立系の監督や無名に近い俳優たちは知名度を上げていく。毎年アカデミー賞を授与している映画芸術科学アカデミ

一は、米国内および国外の 60 の映画祭で最高賞を受賞した作品の中から最も優れた実写短編映画とドキュメンタリーにオスカーを贈っている。

毎年恒例のイベントとなった映画祭が増え、成功している映画祭主催者の多くは、熱烈な映画ファンの中から有料会員を集めることができるようになった。これらのファンは、映画祭で上映が企画される映画は何でも見ようと会員登録する。会費は1年ごとの前払い制なので、特に米国人にとってこれは映画祭に絶大な信頼を置いているということになる。多くの場合、会費を払っても、チケットの先行購入ぐらいしか特典はない。米国人が映画祭の会員になる動機のひとつは、映画祭が米国で外国映画を見るための拠点となることが多いからだ。上映会に出席する監督や俳優は、ワークショップに参加して雰囲気を盛り上げ、地域や主催者が切実に必要としている支援を増やすのに一役買うことが多い。映画祭に対する地域ぐるみのかかわりや関心が高まっているため、地元企業や大企業の格好な後援イベントとしても人気を集めている。

映画芸術科学アカデミーが作成した映画祭一覧リストは下記のサイトへ。

[http://www.oscars.org/80academyawards/rules/rules\\_shortfest.html](http://www.oscars.org/80academyawards/rules/rules_shortfest.html)

## 興行関連のデータ

米国映画協会(MPAA)は、見やすい図表やグラフを駆使して興行成績データを24ページのレポートにまとめた。このレポート「2006年米国興行市場統計データ(2006 U.S. Theatrical Market Statistics)」の全文を参照するには、下記のサイトへ。

<http://www.mpaa.org/2006-US-Theatrical-Market-Statistics-Report.pdf>

レポートの要点は次のとおり。

- 米国映画産業の2001年の興行収入は169億6000万ドル。うち約半分の84億1000万ドルが国内、残りは国外における収入。
- 米国映画産業の2006年の興行収入は258億2000万ドル。うち3分の1強の94億9000万ドルが国内、残りは国外における収入。切符の売り上げは、2005年に比べて国内および国外共に伸びたが、伸び率は国外の方が高かった。
- 2006年に初めて1本の映画の国内興行収入が4億ドルを突破(「パイレーツ・オブ・カリビアン/デッドマンズ・チェスト」)。1本で5000万ドル~9900万ドルを稼ぐ映

画が増えており、その数は2005年の36本から2006年の45本へと増加した。全体的には、5000万ドル以上を稼ぎ出した映画は2005年の56本から2006年の63本へと増加した。

- 米国で封切られた新作映画。

1996年	420本
2002年	449本
2005年	535本
2006年	599本

- 映画が好きな人は、映画に代わる娯楽機器（DVDプレイヤー、衛星テレビ、その他）が自宅にあっても映画館に通い続ける。映画館へ足を運ぶ回数は、娯楽機器を4つ以上所有しているか利用できる人で年間約10回、3つ以下だと年間7回にすぎなかった。
- 米国内の映画館入場者数は、2006年に史上最多を記録。切符の売り上げ数は、ほぼ15億枚に上った。

\* MPAAは大手映画会社6社が設立した非営利団体で、映画産業のために活動している。そのウェブサイト [<http://www.mpaa.org/>] では、MPAAについて「米国の映画・ホームビデオ・テレビ業界を代弁し、擁護する団体」として説明している。